

科目名/提供大学名	地域特講F(福井地域学)／福井県立大学
科目名(英文)	Special Lectures about Regional Study F
対象学年	1・2・3
開講時期	前期
単位数	2
科目区分	原則として、選択。
授業形態・開講形態	講義
担当教員名	南保 勝
オフィスアワー	福井県立大学地域経済研究所 201研究室
教員メールアドレス	nanbo@fpu.ac.jp
概要	1. 福井県の姿を近世、明治期、そして現代の地域特性から把握する。 ⇒福井県はどのように成立し、近世、明治期の福井県にはどのような産業が栄えたか、そして現在、福井県の経済、それを支える産業・企業・地域人のすごさとは。 2. その上で、今後求められる地域のあるべき姿、地方創生を考える。 ⇒歴史・現状での地域特性から得られた福井県の強みをどう生かすべきか…。
授業目標・目的	本講義は、素晴らしい歴史、伝統、文化、産業・企業、県民性…を保有する福井県の姿を受講者に理解してもらい、ちょっとだけでも福井を好きになってくれる、興味を持ってくれる受講者が一人でも多く増えてくれることを期待し、開講するものである。
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)	<input checked="" type="checkbox"/> 自他の理解能力 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input checked="" type="checkbox"/> 情報収集・探索能力 <input checked="" type="checkbox"/> 社会・職業理解能力 <input type="checkbox"/> 役割把握・認識能力 <input type="checkbox"/> 計画実行能力 <input type="checkbox"/> 選択能力 <input type="checkbox"/> 課題解決能力
学生の目標・到達目標	この講義を通じて得た知識が、将来、社会人として必要な人間力、社会的対処能力をアップするためのツールとして役立つこと。並びに、福井地域に存する歴史、風土、文化、経済・産業特性、県民性など多様な側面から分析・整理し、福井地域に対する理解度を含めることで、同地域の誇り、プライドの醸成につながることを目標とする。
授業計画・授業内容	第1回 福井県はどのように成立したか(「継体天皇」と「越国)」、近世・幕末へ、福井県の誕生) 第2回 近世、明治期における福井県の産業(日本屈指の工業地域、和釘の生産では日本最大) 第3回 福井県経済の今(経済規模、人口、産業) 第4回 福井県経済の今(労働、県民性、歴史から生まれたライフスタイル) 第5回 歴史で迎える市まちの姿(あわら市、坂井市、福井市、大野市、勝山市) 第6回 歴史で迎える市まちの姿(鯖江市、越前市、敦賀市、小浜市) 第7回 製造業(繊維、めがね、) 第8回 製造業(化学、機械・金属、未来産業として進化する伝統的工芸品産業) 第9回 非製造業(地域間競争の中での商業・サービス業、域内需要に恵まれた建設業、転換期の原子力産業) 第10回 地域企業の特徴(意外と多い長寿企業、) 第11回 地域企業の特徴(製造業を支える外発型企業群、小規模企業が多いものの、技術水準はトップクラス) 第12回 自慢したい地域の企業(アイジーイー、小浜海産物、清川メッキ工業、小林化工、サカセ化学工業) 第13回 自慢したい地域の企業(シャルマン、武生特殊鋼材、日華化学、フクビ化学、前田工織) 第14回 地方創生に向けて(地方創生とはいったいどうゆうことか、47都道府県別、県内9市別にみた質的経済力・経済成長力) 第15回 地方創生に向けて(地方創生に向けて今何を成すべきか、官がやるべきこと、民がやるべきこと)
授業方法	
キーワード	地域研究、歴史、経済、産業、企業、県民性
教科書	南保勝著「福井地域学」[2016.3]晃洋書房
参考書	
評価方法・評価基準	レポート提出。 講義への取り組み姿勢及び講義内容(実態経済)の理解度も重視。
関連科目	
履修の要件	
必要な事前・事後学習	
その他・注意事項	